

レース名	日付	クラス	場所	コース	展開	想定馬場	ポイント
サマーチャンピオン	2018/8/14	JpnIII	佐賀	1400m	ミドルベース	良	枠順

枠	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	父	父系統	母父	母父系統	能力	騎手	適性	展開	総合評価	期待値	印	結果
1	1	マサヤ	牡7	52	山口	スターリングローズ	ミスプロ系	ゴーナウ	ナスルーラ系	D	A	C	C	C	C		
2	2	オウノミチ	牡7	52	竹吉	オレハマッテルゼ	サンデー系	スターマン	リボー系	D	C	C	D	D	D		
3	3	ブルミラココ	牡6	56	秋山	キンシャサノキセキ	サンデー系	Theatrical	ノーザン系	B	B	B	C	B	B	△3	
4	4	タイセイエクレール	牡5	54	Mデムーロ	ペーカバド	ノーザン系	シンボリクリスエス	ロベルト系	B	A	B	B	B	B	△2	
5	5	サンマルドライブ	牡5	52	兒島	カジノドライブ	ナスルーラ系	マンハッタンカフェ	サンデー系	D	C	C	D	D	D		
6	6	タイセイブライド	牡3	53	大野	ヨハネスブルグ	ノーザン系	エルハーブ	ノーザン系	C	C	B	C	C	B	×1	
	7	ヒショウ	セ10	52	田中直	ジャングルポケット	ナスルーラ系	Phone Trick	アイスカベイト系	D	C	D	D	D	D		
7	8	ヨシオ	牡5	55	戸崎	ヨハネスブルグ	ノーザン系	ケイムホーム	ミスプロ系	A	B	A	B	A	B	◎	
	9	ルグランフリソン	牡5	56	福永	Smart Strike	ミスプロ系	Theatrical	ノーザン系	B	A	B	B	B	B	△1	
8	10	エイシンバランサー	牡6	55	下原	Ghostzapper	ノーザン系	Mizzen Mast	ナスルーラ系	B	A	B	B	B	B	▲	
	11	エイシンヴァラー	牡7	56	吉村	サウスヴィグラス	ミスプロ系	シンボリクリスエス	ロベルト系	B	A	A	B	A	B	○	

隊列図	見解	ラップタイム
ヨシオ ルグラ エイヴ マサヤ エイバ タイエ ブルミ タイプ サンマ オウノ ヒショウ	佐賀競馬場の特徴といえば、「内ラチ沿いの砂が深いこと」だろう。頭数が少ないレースであれば、馬群がバラけやすかったり、外に出すのも容易になるので内枠が不利とはいえないが、頭数が多いレースだと馬群が密集したり、内に押し込められる可能性が高くなるので内枠はレース運びがしづらくなる。サマーチャンピオンはダートグレードなので、例年フルゲートの12頭か11頭立てで行われるレース。何頭かの地方勢はレースに参加できないので、実質的な少頭数ともいえるが、内目の枠からだレース運びがしづらいのは事実だろう。実際、過去5年のサマーチャンピオンを振り返っても、内枠が苦戦し、中～外枠有利の傾向が出ている。今年のサマーチャンピオンは昨今のダートグレード路線を表すように一長一短のメンバー。内に押し込められそうな馬は評価を下げ、スムーズに運べそうな馬を上位に評価すべきだろう。それでは予想にいきましよう。 本命は本格化ムードが漂う ヨシオ の逃げ切りに期待。(以下省略)	回顧 次走狙い馬

ミドルベース

枠	馬番	馬名	印	評価	結果	回顧
1	1	マサヤ		昨年のサマーチャンピオンは勝ち馬ラインシュナイダーから3.4秒離されての7着。ダートグレードで通用するレベルではない。		
2	2	オウノミチ		近走はダートグレードで全く通用しないウルトラカイザーに完敗。苦戦必至だろう。		
3	3	ブルミラコロ	△3	買いたい要素がない。実績的には当然上位争いしてもいいが、初のワンターン、やや淡白な走りが続いている近走、内に押し込められそうな枠順など不安が多い。		
4	4	タイセイエクレール	△2	上位勢の凡走待ちになりそう。戦績は確かに安定しているが、レベルの低いレースばかりに出走しており、ダートグレードで即通用するとは思えない。仮に好走しても2、3着止まりなのではないか。		
5	5	サンマルドライヴ		前走吉野ヶ里記念ではウルトラカイザーに馬なりのまま押し切られての2着。例年のサマーチャンピオンの勝ち時計を考えると2秒くらい詰める必要があり、馬券圏内の走りまでは期待できない。		
6	6	タイセイブライド	×1	初ダートで常識的に厳しそうだが、全姉はダートグレード勝ちのあるフクノドリーム。血統的にダートで走れる下地はあり、それでも厳しい戦いになりそうだが、どこまで走るか分からないので押さえておく。		
	7	ヒショウ		地元佐賀のレースでも苦戦続き。参加するだけだろう。		
7	8	ヨシオ	◎	前走マーキュリーカップでは距離を心配して評価を下けたが、ダートグレードの常連ミツバを最後まで苦しめての2着。2走前はエルムステークスを制したハイランドピークを追いかけたの4着に健闘。ここに来て明らかに充実期を迎えており、外目の枠からスムーズな先行策を打てる今回も好勝負必至だろう。		
	9	ルグランフリソン	△1	揉まれ弱い面があり、近2走はその脆さが出してしまったの敗戦。7枠9番なら外からのプレッシャーを受けずに運べそうで、今回は巻き返しの番と見ていいか。		
8	10	エイシンバランサー	▲	転入初戦こそ馬体重が増え過ぎて動けなかったが、2戦目で馬体重を一気に絞ると格の違いを見せつけての勝利。いくら相手が弱かったとはいえ、2着以下をほぼ馬なりで子ども扱いする圧勝劇。JRA時代の実績を考えると、ダートグレードで通用するだけの能力はあるはずだ。		
	11	エイシンヴァラー	○	2走前の黒船賞では単勝234倍での勝利でアツと驚かせたが、続かなかつた記念では勝ち馬サクセスエナジーを追いかけて4着に粘り、黒船賞が決してフロックではないことを証明。能力通りに走れば、必然的に上位争いに加わってくるのではないか。		